

学年末試験の対策の仕方

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
今日と明日は、大学センター試験が行われます。受験生の皆様は大変でしょうが、頑張っていたきたいと思います。
2. 実は、今年から大学入試がガラッと変わる予定でした。しかし、文部科学大臣の失言があったり、内閣にもいろいろな問題が起こったりして、とても処置できないということで、大学入試改革は行われなくなりました。私は、こんなことでよいのかと思うほど、本当にびっくりしています。
3. 大学入試改革については今まで山ほど議論を重ね、ある程度の結論に達していました。ところが、文部科学大臣の失言と政局が不安定という理由で、多くの方々に迷惑をかけることになってしまいました。これには政治的責任が大いにあると、私は驚きを通り越して憤慨さえしています。
これから先は慎重に議論を進め、受験生や国民の皆様に迷惑のかからないような素晴らしい大学入試制度を作っていただきたいと思います。
4. さて、この「開倫塾の時間」は勉強の仕方についてお話をする番組ですので、今日は「学年末試験の対策の仕方」を紹介させていただきます。
学年末試験は、小学生・中学生・高校生・大学生・大学院生に年に1回、2月中旬頃から3月中旬頃にかけて行われます。これはその学年で一番大切な試験ですので、しっかりとした準備が必要です。できれば今日から始めると1か月間行うことができ、本番に十分間に合います。
5. 試験を行う目的は、今までに学習したことをやり直して知識を自分のものにすることです。試験は知識を定着させるために非常に役立つものであって、よい点数を取って優越感に浸るためのものではありません。
試験の教育的意味とは、今までに学習したことを復習して理解を深めたり、身に着けたりすることです。それが試験の本来の役割であることを認識し、準備を十分にした上で本番に臨んでいただきたいと思います。
6. そうは言っても、学年末試験は多くの教科で行われます。例えば中学生のそれには、英語・数学・国語・理科・社会の5教科のほかに音楽・美術・保健体育・技術家庭の4教科も入ります。

多くの方は5教科に目が行き、4教科には目が行かないようです。そのため、音楽・美術・保健体育・技術家庭はほとんど試験勉強をしないまま、それどころか全くしないで試験に臨んで大変な思いをするようです。それが多くの中学生の実情です。高校生も同様です。

7. そこで私は、考え方を少し変えてはどうかと思っています。それは、英語・数学・国語・理科・社会は普段からよく勉強していますので、学年末試験の準備に関しては音楽・美術・保健体育・技術家庭からスタートしてほしいということです。

8. 率直に言いますと、5教科と比べ、4教科は教科書のページ数が少なく、理解した上で覚えなければならない知識の量もそれほど多くありません。ですから、4教科から試験勉強を始め、それが終わってから5教科に取り組むのがよいと思います。両方を並行して進めるのもよいでしょう。

9. もう少し言うと、1月中は主に4教科を勉強し、2月に入る少し前から5教科を勉強すると、万遍なく得点できます。もしかすると9教科すべてで満点が取れるかもしれませんが、ぜひチャレンジしていただきたいと思います。

10. 先週もお話をしましたが、人間は「これは覚えなければならないのだ」と意識しないとなかなか覚えられません。ですから、「一度理解できたことは絶対に覚えてしまおう」と意識しながら、それらをすべて覚えてください。

そうしないと、今はやりのことばで言うと「スルー」してしまい、つまり見過ごしてしまっただけでなかなか身に着かず、得点にも結び付きません。

11. また、小学校・中学校・高校で学ぶ内容はすべて、大学に進学してからも社会に出てからも役立ちます。ですから、「ここは確実に覚えたほうがよい」と考えたところはきちんと覚えていただきたいと思います。

12. 特に、音楽は芸術の最たるものです。教科書をていねいにていねいに勉強すると、音楽についての理解が深まります。また、美術は芸術の極致です。教科書には美術の歴史、絵・彫刻・版画の描き方や作り方などがとても親切に書かれていますので、熱心に読んでください。保健体育をしっかり学ぶと、一生を健康に過ごすことができます。技術家庭は技術の基礎・家庭の基礎がわかります。

ですから、音楽・美術・保健体育・技術家庭の4教科も、英語・数学・国語・理科・社会の5教科と同様にしっかり勉強していただきたいと思います。

13. 今日は、学年末試験に向けた勉強は5教科から始めるのが普通ですが、4教科からスタートさせてはどうかというお話をさせていただきました。ぜひやってみてください。